令和７年度南丹市歳入歳出決算の概要

令和７年度 一般会計歳入歳出決算

歳入　　２６８億７，９７６万６，４７３円
歳出　　２５４億５，００９万８，７５６円

令和8年南丹市議会9月定例会で認定されました、『令和7年度南丹市一般会計・特別会計歳入歳出決算』の概要についてお知らせします。

令和7年度一般会計決算は、市に入ったお金（歳入）の総額が 268億7，976万6，473円、使ったお金（歳出）の総額が254億5，009万8，756円となりました。歳入歳出差引額は、14億2，966万7，717円となり、このうち翌年度へ繰り越すべき財源2億9，064万 3，000円を差し引いた実質収支額は、11億3，902万4，717円の黒字決算となりました。
ただし、その歳入には、前年度からの繰越金10億6,306万5，367円が含まれています。

歳入で一番多いのは、標準的な行政サービスを行うために交付される「地方交付税」が、100億3，809万円、歳入全体の37．4％を占めています。続いて、市民税や固定資産税などの「市税」で43億164万5，693円（16．0％）、特定の事業実施のため、国から交付される「国庫支出金」で 32億2,986万1,479円（12.0％）の順となっています。

歳出は、子育て環境の充実に向けた取組のほか価格高騰対策としての給付金事業で生活と暮らしの支援を行った「民生費」が69億5，312万 5,544円　歳出全体の 27.4％を占めています。続いて「総務費」が51億 2,181万1，759円と20.2％続いて 「公債費」 29億1，184万2，769円（11.4％）「土木費」25億7，200万7，110円（10.1％）となっています。
そのほか、4 特別会計（企業会計は除く）について、すべて黒字決算を維持しております。

令和 7 年度は、将来にわたる安定した市民生活の確立を目指し、「基金に依存しない財政運営」に向けて、市政の集中改革の取り組みである「南丹市財政健全化プラン（緊急対策）」における 2 カ年の「集中健全化期間」の最終年度に位置づけられました。
そのような中、引き続き不安定な世界や社会情勢、物価高騰対策、人事院勧告に伴う人件費の増加などにより、財政状況は厳しさを増してきました。
しかしながら、前市長の任期満了の最終年度であり、なおかつ元利償還金の７割を後年度の地方交付税で補填される有利な起債である合併特例債の発行期限でもあったため、南丹市にとって必要な大型事業の実施や子育て環境の充実、脱炭素に向けた官民一体の取り組み、工場立地等に向けた基盤整備などについて推進してまいりました。